ONKYO®

デジタルホームシアターシステム

BASE-L55

スピーカー部
SL-057（サブウーファー）
D-057C（センタースピーカー）
D-057M（サテライトスピーカー）

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

サテライト/センタースピーカー（D-057M/D-057C）

■ 独自のハイクォリティ設計、OMF*ダイヤフラム採用

*独自の素材と成形方法によって、振動板に要求される条件（1軽量、2高剛性、3適度な内部ロス）を最適にバランスさせ、雑音の低減、トランジェント（過渡特性）を向上させています。また、音質の良い木製キャビネットを採用しています。

■ 簡単に接続できる色付接続コード付属

サブウーファー（SL-057）

■ 新技術「AERO（エアロ） ACOUSTIC（アコースティック） DRIVE（ドライブ）」を採用

*AERO ACOUSTIC DRIVEとは、「空気をいかに駆動するか」という発想で、重心が低くよりハイスピードな低音を実現させるオンキヨー独自の技術の総称です。
SL-057では、ダクト形状を細長いスリット形状にすることにより、空気に十分な負荷をかけ、重心が低くスピード感あふれる超低音を再生します。また、この技術によりダクトからの風切り音などの音質に悪影響を及ぼす不要なノイズを極限まで低減させ、低域再生範囲の拡大もあわせて実現させています。

■カットオフフィルター（FILTER（フィルター）/DIRECT（ダイレクト））切り換え採用

カットオフフィルター切り換えを「DIRECT」にすることにより、AVレシーバーのサブウーファー出力端子から出力される信号を忠実に再生します。

■ LINE（ライン） OUTPUT（アウトプット）端子装備

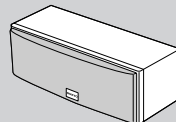
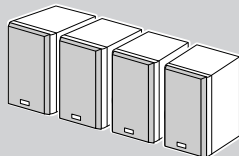
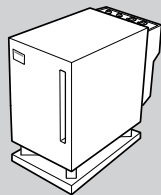
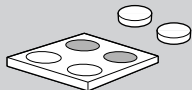
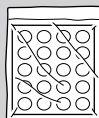
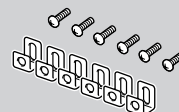
LINE OUTPUT端子により、サブウーファーの増設が可能で、超低音を強調することができます。

ご注意

本機は、サブウーファー（SL-057）、センタースピーカー（D-057C）、サテライトスピーカー（D-057M）およびTX-L55との組み合わせで使用するように設計されております。本機とTX-L55以外との組み合わせ、サブウーファーと他のスピーカーとの組み合わせや、他のアンプとスピーカーとの組み合わせでご使用になった場合の故障については、保証できない場合がありますのでご了承ください。

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表わす記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。（　）内の数字は数量を表しています。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容(左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにアンプの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧や船舶などの直流(DC)電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。
●本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
●本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重いものをのせてしまうことがあります。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐにアンプの電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。
●移動させる場合は、アンプの電源スイッチを切り、スピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など思わぬ事故の原因になることがあります。
●壁はその材質、また桟などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては、十分にご注意ください。（専門業者にご相談ください。）

■ スピーカーコードは安全な場所へ

●スピーカーコードの配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを利用した場合や高い所に置いた場合、壁に掛けた場合など、特にご注意ください。

■ 次のような場所に置かない

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災･感電の原因となることがあります。
●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●電源を入れる前にはアンプの音量調整ツマミを最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

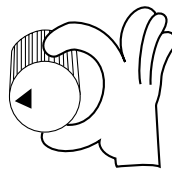
■ 点検について

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

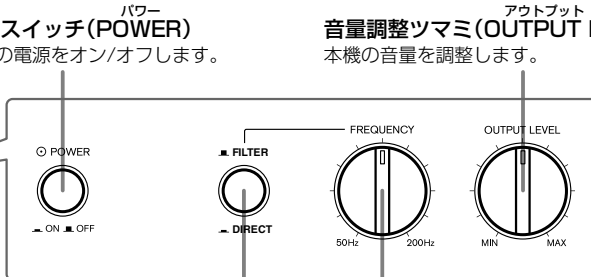
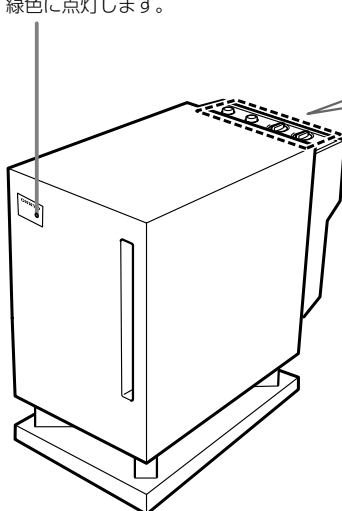
音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

サブウーファー（SL-057）

詳しい説明は、〔　〕内のページをご覧ください。

電源インジケーター
電源が入っているとき
緑色に点灯します。

電源スイッチ（POWER）
本機の電源をオン/オフします。

音量調整ツマミ（OUTPUT LEVEL）〔12〕
本機の音量を調整します。

カットオフフィルター切換スイッチ（FILTER/DIRECT）〔12〕
本機に内蔵している高域をカットするフィルターのオン/オフを切り換えるスイッチです。

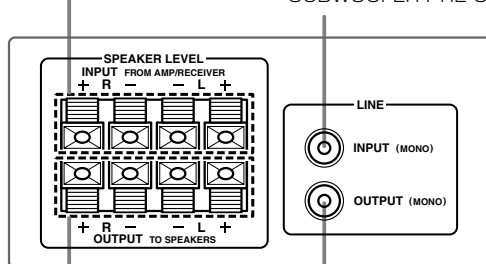
FILTER：カットオフフィルターが働きます。

DIRECT：カットオフフィルターは働きません。AVレシーバーからのサブウーファー信号をそのまま忠実に再生します。

カットオフ周波数調整ツマミ（FREQUENCY）〔12〕
カットオフフィルター切換スイッチが「FILTER」のときに、カットする周波数を変えるツマミです。50Hz～200Hzまでの間で連続的に調整できます。1目盛は15Hzきざみになっています。

ご注意
カットオフフィルター切換スイッチが「DIRECT」のときは働きません。

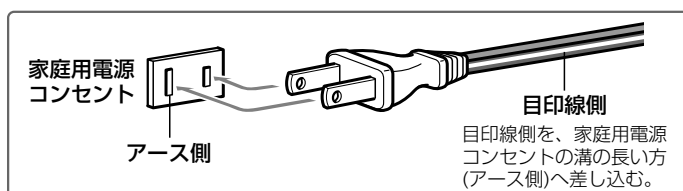
スピーカーレベル入力端子（SPEAKER LEVEL INPUT）〔11〕
AVレシーバーのスピーカー出力端子と接続します。

ライン入力端子（LINE INPUT）〔10〕
AVレシーバー（TX-L55）のSUBWOOFER PRE OUT端子と接続します。

スピーカーレベル出力端子（SPEAKER LEVEL OUTPUT）〔11〕
左右スピーカーと接続する端子です。スピーカーレベル入力端子に入力された信号が出力されます。

ライン出力端子（LINE OUTPUT）〔11〕
サブウーファーを増設するときに使用する端子です。増設するサブウーファーの入力端子と接続します。ライン入力端子に入力された信号が出力されます。

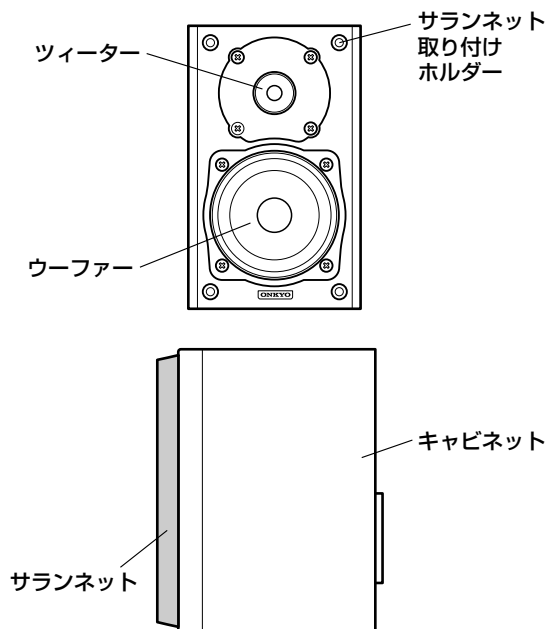
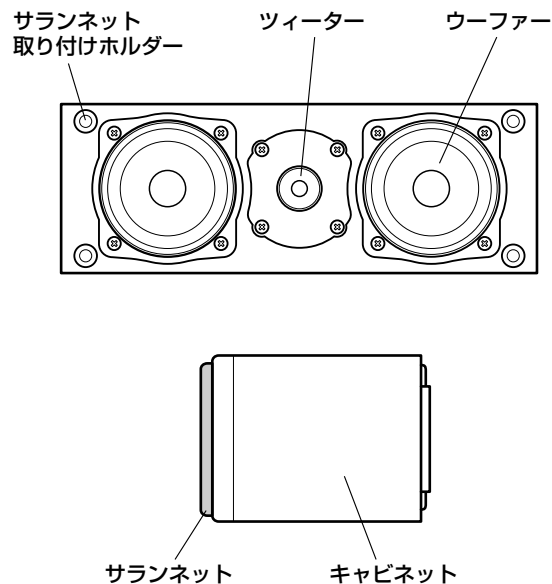
家庭用電源コンセント

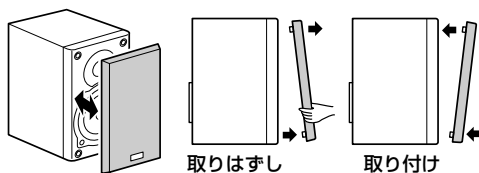
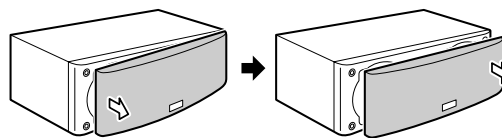
アース側

目印線側
目印線側を、家庭用電源コンセントの溝の長い方(アース側)へ差し込む。

より良い音で聞いていただくために

本機の電源コードはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源コードの目印線側を家庭用の電源コンセントの溝の長いほうに合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

サテライト/センタースピーカー（D-057M/D-057C）

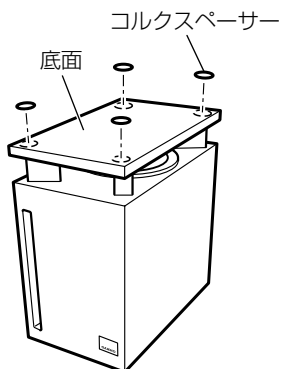
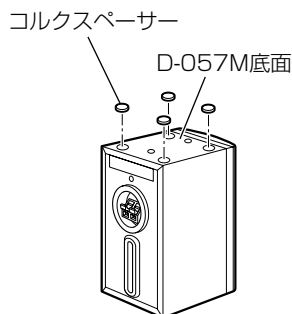
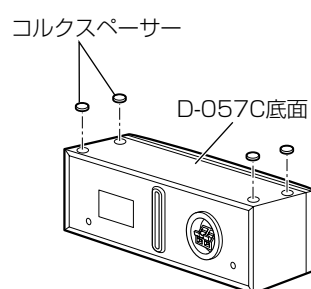
サテライトスピーカー（D-057M）

センタースピーカー（D-057C）

スピーカーは前面のサランネットを取りはずすことができます。サランネットを取り付けたり、はずしたりするときは次のように行ってください。

1. サランネットの端を持ち、手前に軽く引っ張り、サランネットの端をはずします。
2. 同じようにサランネットのもう1つの端を手前に引っ張ると、サランネットは本体からはずれます。
3. 取り付けるときは、サランネットの四隅にあるピンを本体のサランネット取り付けホルダーに合わせて押し込みます。

D-057M

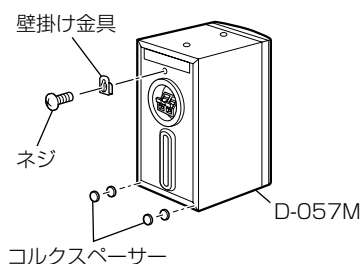
D-057C

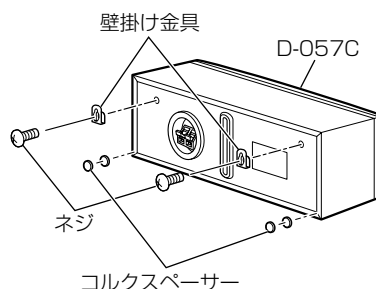
付属品の使いかた

コルクスペーサーの使いかた

よりよい音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

壁掛け金具の使いかた

付属の壁掛け金具を使って壁に掛けることができます。

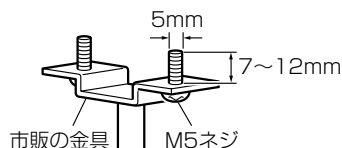
■ D-057Mの場合

スピーカーの上下を逆にし、付属のネジを使ってキャビネットの背面に金具を取り付けます。付属のコルクスペーサーを図の位置に2枚重ねて貼り付けると、安定した設置ができます。また、サランネットは取りはずせますので上下逆にすることができます。

■ D-057Cの場合

付属のネジを使ってキャビネットの背面に金具を取り付けます。2個の金具の間隔は20cmです。
また、付属のコルクスペーサーを図の位置に2枚重ねて貼り付けると、安定した設置ができます。

ご注意

壁に取り付ける場合は、壁の強度に充分注意してください。材質、桟（さん）の位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ます。ネジは頭の直径が10mm以下、ネジ部の直径が4mm以下で、できるだけ太く長いものをご使用ください。（業者の方にご相談いただくのが安心です。）

市販のスタンドや金具を使って固定するには

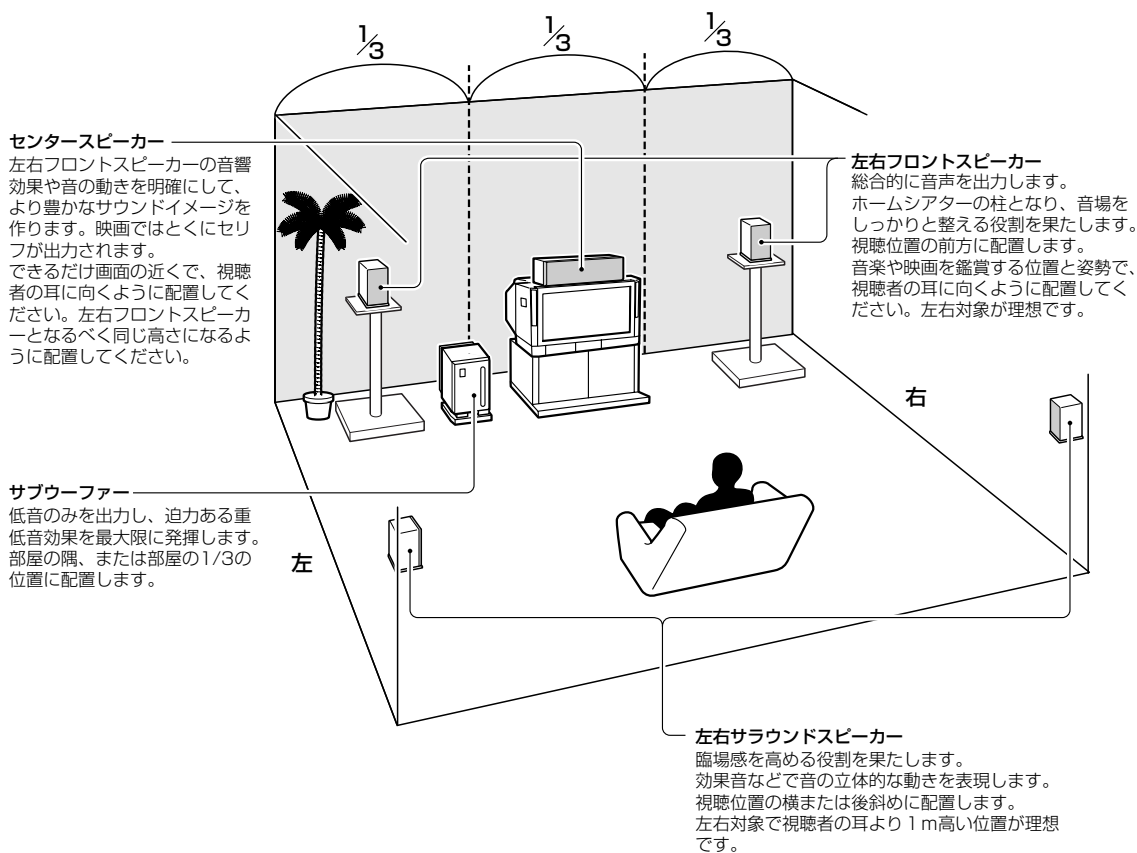
市販のスタンドや金具を使用できるように、スピーカーの背面にM5用ネジ穴1個、底面にピッチ60mmでM5用ネジ穴を2個設けています。取り付け方法については、ご使用になるスタンドや金具の説明書をご覧ください。
スタンドや金具をご使用になるときは、スタンドや金具の厚みを考慮して有効ネジ長が7～12mmのものをご使用ください。

ホームシアターとは

ホームシアターで楽しもう

本機は、TX-L55との組み合わせで音の立体感、移動感を表現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。（5.1chサラウンド再生）
サテライトスピーカー（D-057M）はすべて同じ性能です。2本をフロントスピーカー（ L、R)、2本をサラウンドスピーカー（L、R）として使用します。

！ヒント

別売りのD-057Mを増設すると、6.1ch再生することができます。

設置のしかた

接続をする

安全のためすべての接続が終わるまでサブウーファー（ SL-057）および他の機器の電源は切っておいてください。

AVレシーバー（TX-L55）と接続する

付属の接続用ピンコードとスピーカーコードを使って下図のように各端子を接続します。

- サテライトスピーカー（D-057M）はすべて同じ性能です。2つを左右フロントスピーカーとして、2つを左右サラウンドスピーカーとして使用します。
- 付属のスピーカーコードの色が入っている方をスピーカー（D-057M/D-057C）のプラス（+、赤色）側に接続してください。
- AVレシーバー（TX-L55）側では、スピーカーコードの色の入っている方を、同じ色のスピーカー端子に接続してください。
- プラス（+）とマイナス（−）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違って接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

！ヒント

この方法で接続する場合は、AVレシーバーの高域がカットされた信号を忠実に再生するため、サブウーファー（SL-057）のカットオフフィルター切換スイッチを「▬ DIRECT（ダイレクト）」でご使用になることをおすすめします。

1.ビニールカバーをはずしスピーカーコードの芯線部をよじります。

2.スピーカー端子のレバーを押しながらコードの先端を奥までしっかりと差し込みます。

3.指を離すとレバーが戻ります。
スピーカーコードを軽く引っ張ってみて確実に接続されているかどうか確認してください。

D-057M
フロントスピーカー
右（R）

D-057C
センタースピーカー

D-057M
フロントスピーカー
左（L）

赤　緑　白

D-057M
サラウンドスピーカー
右（R）

D-057M
サラウンドスピーカー
左（L）

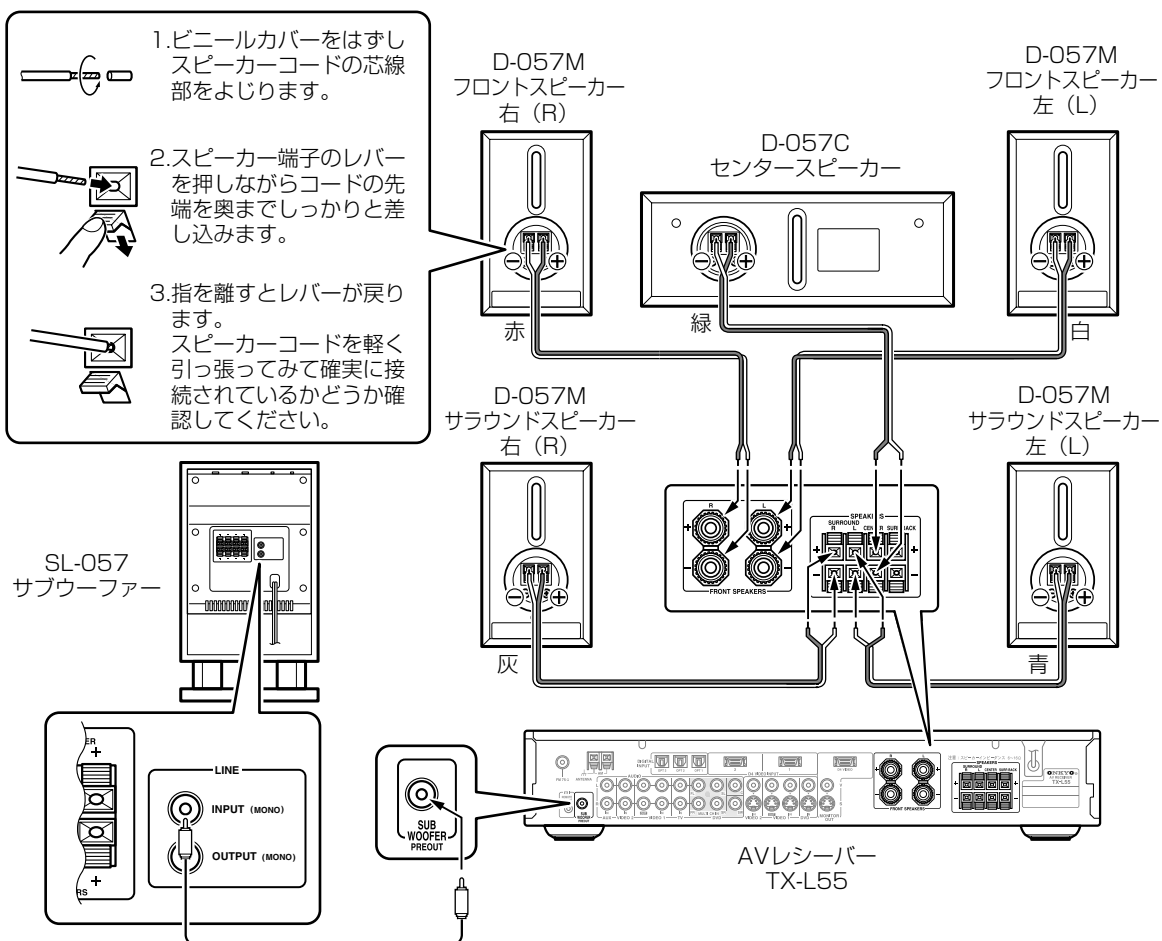
灰　青

SL-057
サブウーファー

LINE
INPUT（MONO）
OUTPUT（MONO）

SUB WOOFER PREOUT

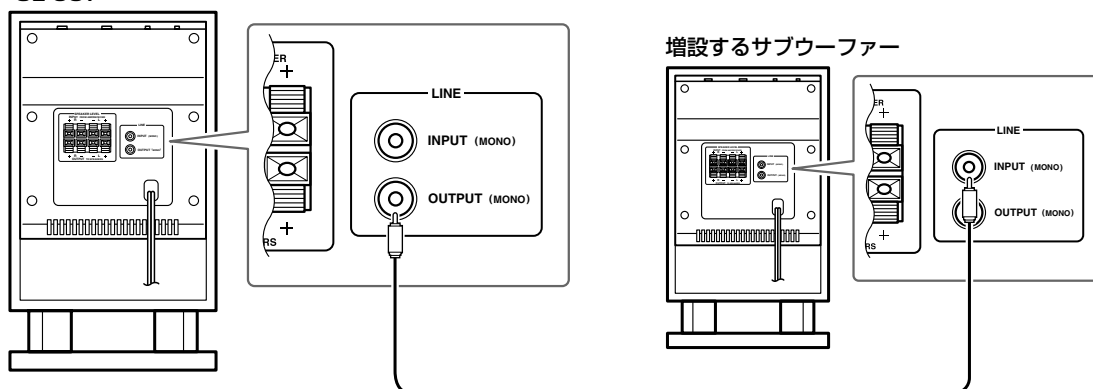
FRONT SPEAKERS

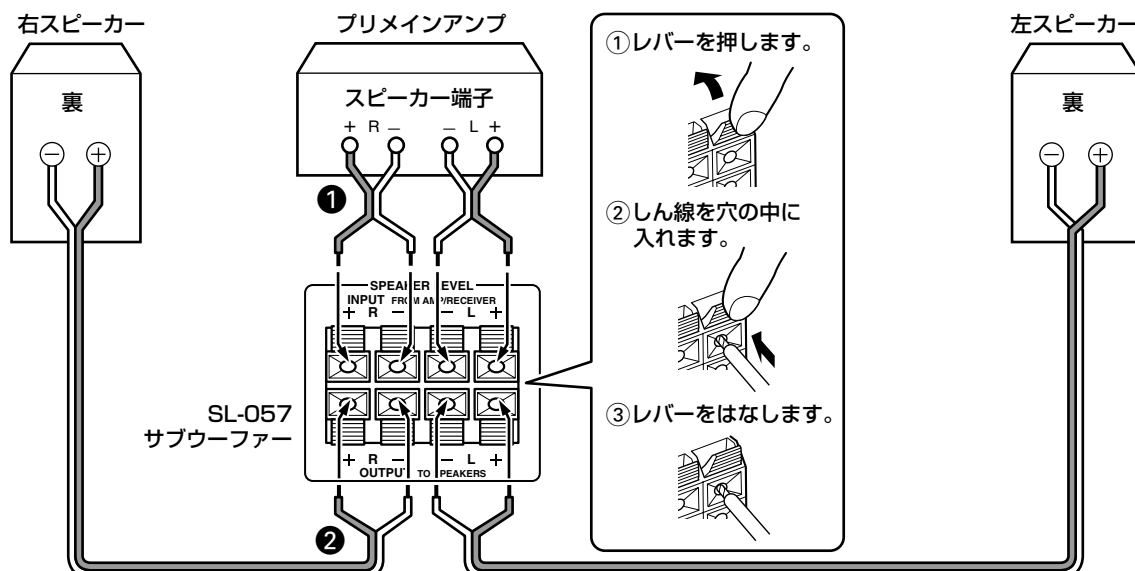
AVレシーバー
TX-L55

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスあるいはL/Rを絶対に接触させないでください。

こんな使いかたもできます

■ 他のサブウーファーを増設する場合

オーディオ用ピンコードを使って、サブウーファー（SL-057）のライン出力端子と、増設するサブウーファーのライン入力端子を接続してください。

■ スピーカーレベル端子を使っての接続

本システムでは使用しませんが、以下のような接続もできます。

❶スピーカーコードを使用して、サブウーファー（SL-057）のスピーカーレベル入力端子とアンプのスピーカー端子を接続します。
❷左右フロントスピーカーは、サブウーファー(SL-057)のスピーカーレベル出力端子に接続します。

！ヒント

この方法で接続する場合は、アンプからの信号は高域がカットされていませんので、サブウーファー（SL-057）のカットオフフィルター切換スイッチを「■FILTER（フィルター）」でご使用ください。

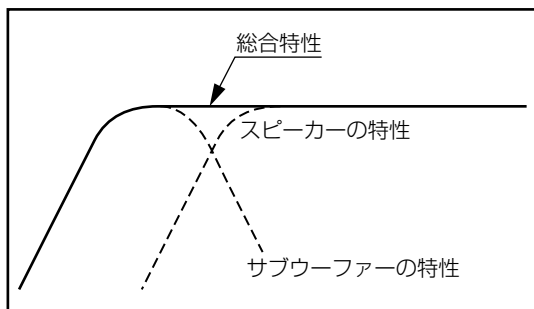
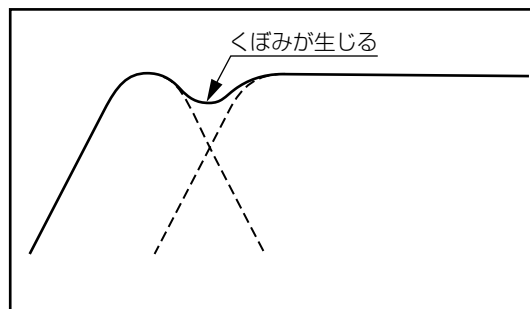
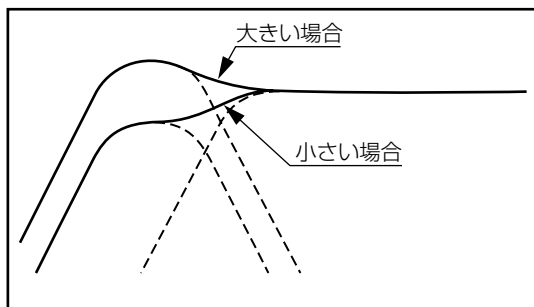
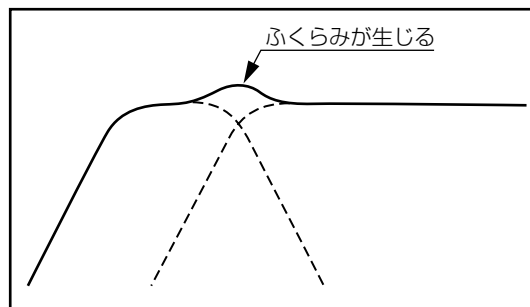
ご注意

- サブウーファー（SL-057）のスピーカー出力端子にスピーカーを接続する場合は、スピーカーレベル入力端子に接続するアンプの表示より低いインピーダンスのスピーカーをつなぐと故障の原因となります。
- BTL接続のアンプはご使用にならないでください。アンプ、本機とも故障の原因となります。一般のアンプはBTLではありません。詳しくはご使用になるアンプの取扱説明書をご参照ください。

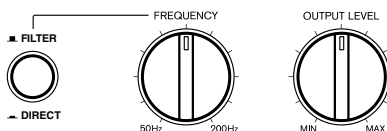
サブウーファーの調整のしかた

サブウーファー（SL-057）の効果について

サブウーファー（SL-057）を接続することで、低音域の再生帯域を広げることができます。
ただし、サブウーファー（SL-057）の再生帯域（本機のカットオフフィルター切換スイッチが「■FILTER（フィルター）」になっているとき）、音量レベルが適切でない場合は、下図のように総合特性に乱れを生じることがあります。

サブウーファーの再生帯域が適切な場合

サブウーファーの再生帯域がスピーカーの再生帯域と離れている場合

サブウーファーの音量レベルが適切でない場合

サブウーファーの再生帯域がスピーカーの再生帯域に近づいている場合

カットオフ周波数、音量レベルの調整のしかた

サブウーファーを設置する部屋の状況に応じて、カットオフ周波数と音量レベルの調整を行ってください。また、超低音は刺激が少ないためつい音量レベルを上げすぎる可能性があります。少し控えめぐらいがちょうど良いバランスになります。（過大入力防止の点からもおすすめします。）

ご注意

過大入力が入らないようにご注意ください。常識を越える過大入力に対しては故障の原因になりますのでご注意ください。また、接続するアンプによってはスイッチ類を切り換えるとき、ノイズを発生することがあります。このノイズはスピーカーを破損する原因にもなりますので、スイッチ類を操作するときは、ボリュームを一旦絞ってから切り換えるようにしてください。

取り扱いについて

■ リアルウッド突板（つきいた）仕上げキャビネットについて

自然の木材を表面化粧板として使用したリアルウッド突板仕上げの製品は、工業製品とは異なり、一つとして同じ木目模様のものはありません。これは原材料の木の年輪が表面にあらわれているためで、不規則な模様の変化や、濃淡の変化といった個性を持っています。オンキヨーの製品は、自然が与えてくれる要素をできる限り生かしたいと考えています。このような個性も音楽を再現する道具の一部として味わってください。塗装や仕上げの品質に関しては、当社が定める基準できびしく管理しております。

■ お手入れについて

本機の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

■ カラーテレビやパソコンとの近接使用について

一般にカラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響を受けるほどデリケートなものですので、スピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生することがあります。
本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますが、サブウーファーの一般的な使用状況からみて、ブラウン管の真横などに設置をしないことを前提に設計されております。そのため、ブラウン管の近くに設置することの多いセンタースピーカーに比べ、防磁レベルが低くなっています。
設置の際には、ブラウン管の真横に置かないでください。
その他の設置のしかたによって、色むらが生じる場合は、一度テレビの電源を切り、15分〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

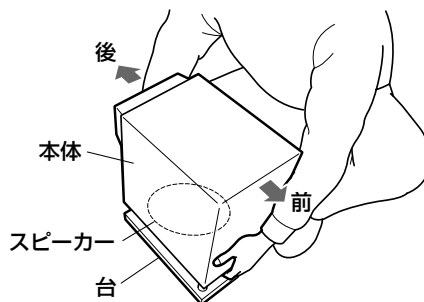
■ 取り扱い上のご注意

本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

サブウーファー（SL-057）のご注意

■ 取り扱い上のご注意

本機を持ち運ぶときは下の図のように、必ず本体の前と後を両手で持っておこなってください。誤った持ち運びかたをされますと、本体底面に設けられているスピーカーを指で破損する恐れがあります。また、本体と台の間に物を入れないでください。故障の原因となります。

■ 使用上のご注意

アンプのトーンコントロールやグラフィックイコライザー等で低域を極端にブースト（増強）したり、低域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号以外に異常な音が発生する場合があります。これはスピーカーユニットの限界を超えた時に発生する「ばた付き」が起こっているためで、故障ではありません。
しかし、このような状態でご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので音量を下げてご使用ください。

■ 設置上のご注意

- 本機のキャビネットは木工製品ですので、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房機具の近く、浴室や台所の近くなど、湿気の多いところは避けてください。
- 振動や傾斜のないしっかりとしたところに置いてください。
- 本機には滑り止めスペーサーが4個付属しています。フローリングの部屋に設置する場合は、このスペーサーを底面4隅に張り付けますとキズを防止するとともに、安定して置くことができます。ただし、設置する場所によりスペーサーの跡が残ることがありますのでご注意ください。
- レコードプレーヤーやCDプレーヤーのそばで本機を使用したとき、ハウリングや音飛び現象が起こることがあります。そのときはプレーヤーと本機の距離を離すか、本機の音量を下げてお使いください。

困ったときは

困ったときは、次の内容をご確認ください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

電源が入らない

電源を入れた途端に電源が切れた

- アンプ保護回路が動作した
  直ちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店もしくは当社サービスステーションにご連絡ください。

電源が入らない

- 電源コードがコンセントから抜けている
  電源コードのプラグをコンセントに差し込んでください。
- 正しく接続されていない
  接続用ピンコードがTX-L55のSUBWOOFER PREOUT端子に正しく接続されているか確認してください。

音が出ない

電源は入るが音が出ない

- 正しく接続されていない
  接続用ピンコードが正しく接続されているか確認してください。スピーカーコードのしん線が接続端子の金属部で固定されているか確認してください。
- TX-L55のボリュームが最小になっている
  ボリュームの位置を確認してください。
- TX-L55のミューティング機能が働いている
  TX-L55のミューティング機能を解除してください。
- TX-L55にヘッドホンが接続されている
  ヘッドホンが接続されていると、スピーカーからの音声は出力されません。

センター/サラウンドスピーカーから音が出ない

- 正しく接続されていない
  スピーカーコードのしん線が接続端子の金属部で固定されているか確認してください。
- スピーカー設定が正しくない
  TX-L55の取扱説明書を見て、スピーカーの設定を行ってください。

センタースピーカーだけ、またはサラウンドスピーカーだけ音が出ない

- TX-L55のサラウンドモードが設定されている
  サラウンドモードによってはセンタースピーカーやサラウンドスピーカーから音声を出力しません。TX-L55の取扱説明書を見て、他のサラウンドモードをお試しください。

サブウーファーから音が出ない/小さい

- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している
  サブウーファー音声要素(LFE)の入っていないソフトを再生している場合はサブウーファーから音が出ません。
- スピーカー設定が正しくない
  TX-L55の取扱説明書を見て、スピーカーの設定を行ってください。
- 接続用ピンコードが正しく接続されているか確認してください。
- サブウーファーの音量調整ツマミ（OUTPUT LEVEL）の位置を確認してください。

サブウーファーからブーンというハム音が出る

- 接続用ピンコードが正しく接続されているか確認してください。
- サブウーファーの近くにテレビなどの誘導雑音を発生する機器がないか確認してください。

BASE-L55(10-E)(SN29343807A) 14 04.7.21, 4:49 PM

主な仕様

サブウーファー（SL-057）

形式： アンプ内蔵 バスレフ型
用途： 超低域再生専用
定格周波数範囲： FILTER：30Hz〜200Hz
DIRECT：30Hz〜1kHz
クロスオーバー周波数： 50Hz〜200Hz（可変）
実用最大出力： 75W（5Ω・JEITA）
入力インピーダンス： スピーカー入力：4.7kΩ
ライン入力：54kΩ
入力感度： スピーカー入力：2V
ライン入力：68mV
使用スピーカー： 20cmウーファー
電源： AC100V（50/60Hz）
消費電力： 50W
外形寸法(W×H×D)： 236W×371H×362Dmm
質量： 13.0kg
その他： 防磁対応（JEITA）

サテライトスピーカー（D-057M）

形式： 2ウェイ バスレフ型
定格インピーダンス： 6Ω
最大入力： 40W
定格感度レベル： 80dB/W/m
定格周波数範囲： 70Hz〜100kHz
キャビネット内容積： 1.3ℓ
使用スピーカー： 8cm A-OMF
ダイヤフラムウーファー
2cm
バランスドームツィーター
外形寸法： 101W×169H×136Dmm
質量： 1.0kg
その他： 防磁対応（JEITA）

センタースピーカー（D-057C）

形式： 2ウェイ バスレフ型
定格インピーダンス： 6Ω
最大入力： 40W
定格感度レベル： 84dB/W/m
定格周波数範囲： 70Hz〜100kHz
キャビネット内容積： 1.9ℓ
使用スピーカー： 8cm
A-OMFダイヤフラムウーファー ×2
2cm
バランスドームツィーター
外形寸法(W×H×D)： 264W×95.5H×136Dmm
質量： 1.6kg
その他： 防磁対応（JEITA）

※ 仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　BASE-L55
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について
詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名： ____________________

Tel.　　　(　　)

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル ☎ 0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または ☎ 072(831)8111（携帯電話、PHSから）

G0407-2

SN 29343807A